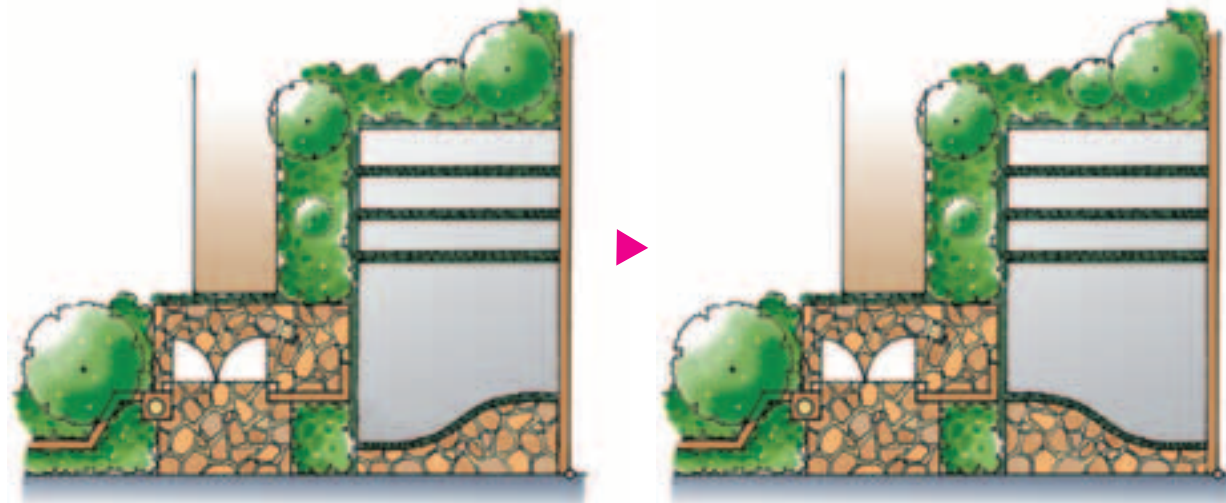


曲線を入れる時の注意点

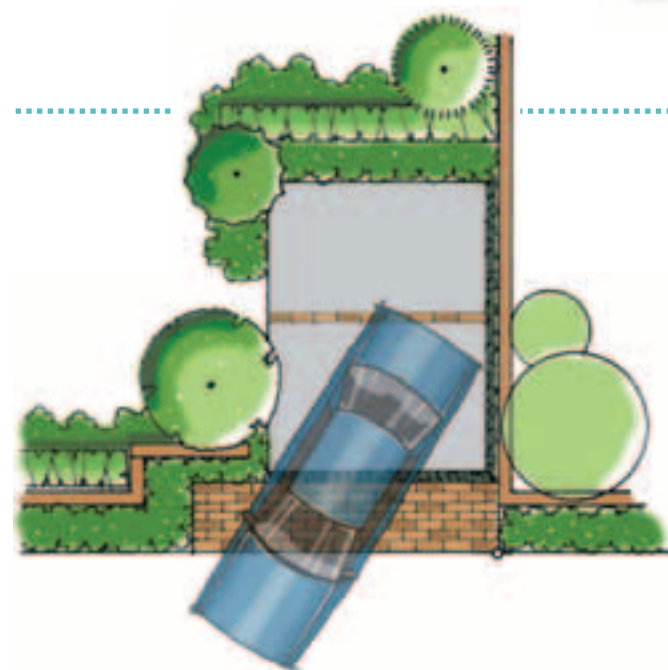
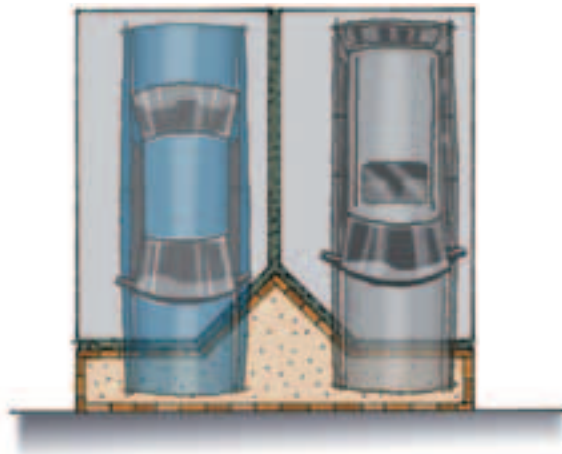
道路側のアクセントを曲線に入れる場合、例えば下図のようなパターンが考えられます。どちらも工事金額は同じですが、やはりメインである「門まわり」へ向かってボリュームを付ける方が、視覚的には安定感が出るものです。



アクセントの付け方ひとつでイメージは大きく変わる

2台駐車のポイント

2台並べて駐車する場合のポイントとしては、床面積が大きくなり1台駐車よりもさらに床が目立ちますので、アクセントの付け方を工夫しましょう。2台分の床のデザインが合体して一つの模様に見えるようにすると良いでしょう。また、それぞれの車の駐車スペースの境目の目安として床にラインやポイントを設けると使い勝手も良くなります。

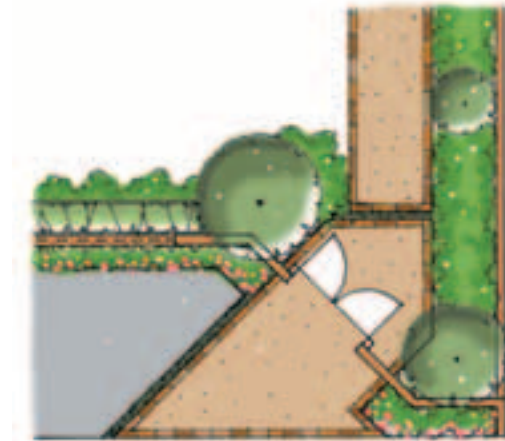
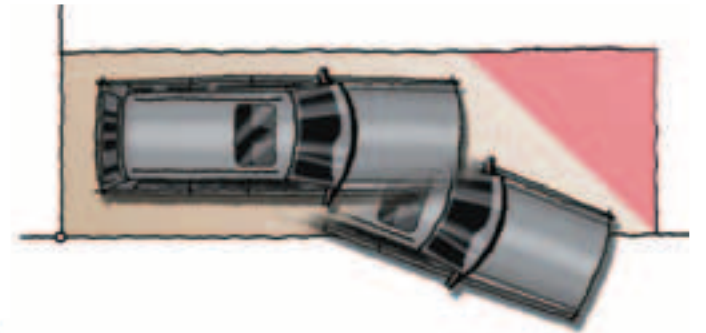


全面道路の幅員が狭い場合のアイデア

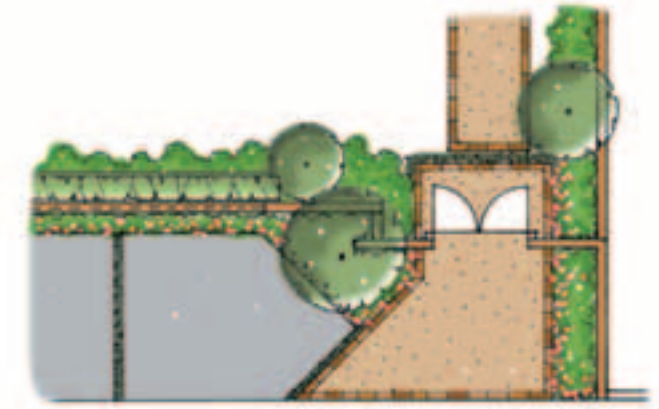
通常、全面道路の幅員は4m以上確保されていますが、まだ道路後退が済んでいない場合、4m未満の道路も実際には多くあります。直角駐車の間口寸法は3mを基準としていますが、これはあくまで道路の幅員が4m以上ある場合ですので、狭い道路に面している場合は間口をもう少し広く取りましょう。ただし、奥まで広くする必要はないので、隣接する塀を後退させたりして、道路側だけを広くとれば経済的に処理することができます。

平行駐車のポイント

平行駐車を採用する場合、道路に対して8m程度のスペースをあけておくこととなります。この場合は単に四角いスペースとして考えるのではなく、車の乗らない部分(右の図の赤い三角部分)を植栽スペースや門まわりとして積極的に活用することがポイントとなります。アプローチも兼ねているのであれば、床の仕上げを変えて視覚的にアピールするのも良いでしょう。



斜めに門を構えた例

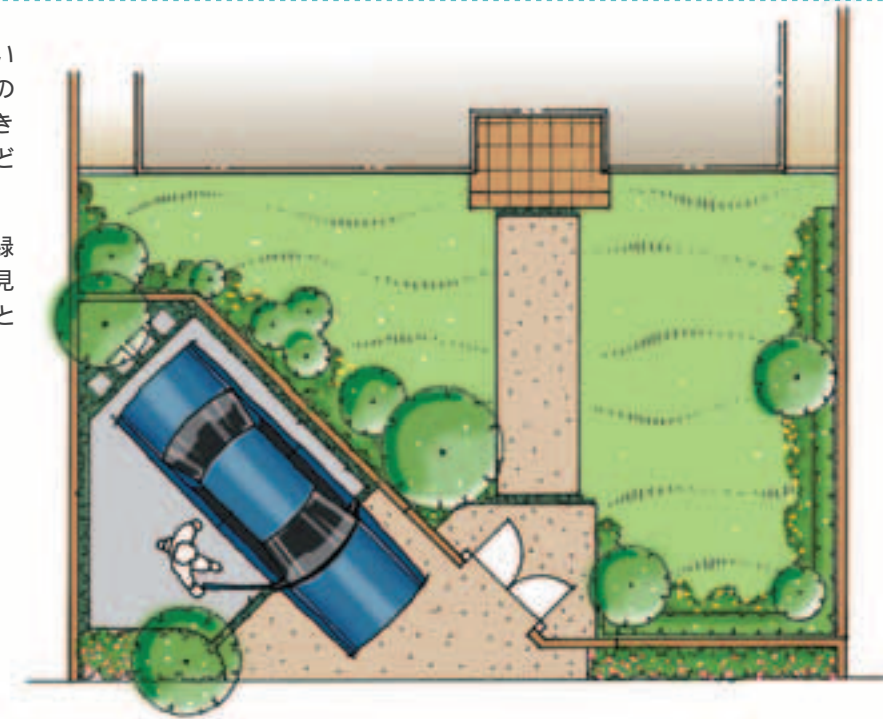


道路と平行に門を構えた例

斜め駐車のポイント

斜め駐車でもっとも注意したいのは道路側の処理です。そのままでは間口が大きく開き過ぎるので植栽スペースなどを設けて調整してください。

そうすることで道路面の緑量が確保され、街並として見たときに潤い豊かな景観となるわけです。



古橋宜昌の EXプランニング講座

おわりに 全4回にわたってエクステリアのデザインについてお話をさせていただきましたが、少しはお役に立てましたでしょうか？
全国のエクステリアに関わる人たちが同じ志を持って、丁寧にお仕事をしていけば、やがて日本の街並をも変えられるのではないかと考えています。
読者の皆さんがプロとしてのプライドを持って頑張ってください。切に願っております。ありがとうございました。